

令和5年度

報告書

庶務報告

会員数

令和5年4月1日現在	299名
令和5年度入会者	16名
令和5年度退会者	15名
令和6年4月1日現在	300名

令和5年度入会者

岩崎和範（別府湾腎泌尿器病院）
白石憲男（清瀬病院）
砂子由美（山本病院）
中島竜太（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
中野祐輔（自宅会員）
野内友三郎（山本病院）
大淵昂（自宅会員）
眞鍋英二（大分総合健診センター）
岡本龍郎（独立行政法人国立病院機構別府医療センター）
小手川直史（べっぶ在宅・訪問クリニック）
迫田景子（安倍内科医院）
清末響（独立行政法人国立病院機構別府医療センター）
河田古都（自宅会員）
渡田祥平（自宅会員）
安永正剛（児玉病院）
八木万天（独立行政法人国立病院機構別府医療センター）

令和5年度退会者

伊東祐信（畑病院）
中野祐輔（自宅会員）
日下部隆則（清瀬病院）
阿部正（自宅会員）
高橋欽一（死亡）
児玉嘉生（死亡）
原政英（独立行政法人国立病院機構西別府病院）

唐 原 和 秀 (独立行政法人国立病院機構西別府病院)
菊 田 浩 一 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
今 居 裕 淑 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
丸 尾 健太郎 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
大 神 貴 史 (別府発達医療センター)
井 上 邦 光 (中村病院)
高 橋 剛 (中村病院)
中 山 俊 之 (大分県厚生連鶴見病院)

会 議

臨時總會	1回
定時總會	1回
定例理事会	24回
全体協議会	1回

別府市医師会（令和5年度第1回）臨時總會
令和5年4月7日（金）臨時總會
第1号議案 令和5年度会費賦課徴収金額の件他2件

一般社団法人別府市医師会第77回定時總會
令和5年6月28日（水）
第1号議案 令和4年度別府市医師会決算の件

定 例 理 事 会

- 第1回理事会 4月5日（水）
看護学校据付靴箱撤去・仕上工事について他16件
- 第2回理事会 4月19日（水）
旧施設解体にともなう物品の処分について他13件
- 第3回理事会 5月10日（水）
医師会館中庭駐車場の駐車停止について他12件
- 第4回理事会 5月24日（水）
旧准看護学科実習室空調機移設について他8件
- 第5回理事会 6月7日（水）
会報委員会委員の追加について他12件
- 第6回理事会 6月21日（水）
診療報酬取扱銀行アンケート調査について他14件
- 第7回理事会 7月5日（水）
速見郡杵築市・国東市医師会との懇談会について他8件
- 第8回理事会 7月19日（水）
借入金について他11件
- 第9回理事会 8月2日（水）
ハラスメントの防止に関する規定について他13件
- 第10回理事会 8月16日（水）
三師会合同役員会の開催について他6件
- 第11回理事会 8月30日（水）
令和5年度2年課程閉科に伴う学則変更申請について他8件

- 第 12 回理事会 9月 20 日（水）
講堂照明器具増設工事について他 12 件
- 第 13 回理事会 10月 4 日（水）
遠隔読影システム導入について他 7 件
- 第 14 回理事会 10月 18 日（水）
別府市議会厚生環境教育委員会「市長と議会との対話集会」について他 6 件
- 第 15 回理事会 11月 1 日（水）
旧施設解体後の警備委託料について他 9 件
- 第 16 回理事会 11月 15 日（水）
年末年始の在宅当番医について他 10 件
- 第 17 回理事会 12月 6 日（水）
別府市医師会新年会について他 6 件
- 第 18 回理事会 12月 20 日（水）
令和 5 年度別府市保健行政に関する協議会の開催について他 11 件
- 第 19 回理事会 1月 10 日（水）
国公立病院との懇談会について他 11 件
- 第 20 回理事会 1月 24 日（水）
休日一次救急医療体制（在宅当番医）の募集について他 17 件
- 第 21 回理事会 2月 7 日（水）
感染症発生動向調査事業における定点医療機関の推薦について他 10 件
- 第 22 回理事会 2月 21 日（水）
ゆけむり医療ネットへの利用料について他 11 件
- 第 23 回理事会 3月 6 日（水）
下関市医師会との親善スポーツ大会の中止について他 15 件
- 第 24 回理事会 3月 27 日（水）
大分県地域医療構想調整会議委員の推薦について他 7 件

全体協議会

令和 5 年 5 月 26 日（金）

事業報告

令和5年度に予定された事業は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにともない、コロナ禍で中止や延期、縮小を余儀なくされた事業については理事会で検討のうえ、再開が可能なものから順次実施した。

また、コロナ禍で定着した Zoom 等を利用した Web 会議や Web 講習については、場所を選ばず気軽に参加しやすいという利便性を活かし、対面参加型会議を少しずつ再開させる一方で、各研修会や事業説明会等、会議の内容によってはハイブリッド型や Web のみの会議を行うなど、開催方法を柔軟に組み合わせて会議を行った。

総務部門では、各種事業の実施について開催方法等を検討したが、懇親会をとまなう速見郡杵築市・国東市医師会との懇談会、三師会合同役員会、忘年会、新年会、別府市保健行政に関する協議会等については4年ぶりに開催し、国公立病院との懇談会もここ数年会議のみだった開催形態を懇親会とセットで開催することができた。夏のレクリエーションや下関市医師会との親善スポーツ大会については、参加人数や開催場所といった面でコロナ禍以前の従来の開催形態を維持することが難しく検討の結果、今年度は開催を見送った。学術事業については、主に会員を対象とした学術研修会を Web 配信と出席者を制限してではあるが会場参加によるハイブリッド型を基本として行い、医療機関（会員・コメディカル）を対象にして行う医療安全管理対策研修会については、3密回避のため別府市公会堂大ホールで開催し、懇親会とセットであるメディカルセミナーを含めて、コロナ禍前と同様に年7回開催することができた。

地域保健センターは、令和3年度より約2年半、別府市よりPCR検体検査事業を受託していたが、新型コロナウイルス感染症の第5類への移行により国と大分県及び別府市からの運用補助金が終了すること、加えて前年度より予定していた旧施設解体工事を実施するにともない、PCR検査を実施していた旧施設内の検査室も長年にわたる役割を終え、検査室は規模を大幅に縮小させ湯のまちけんこうパークに移設した。検査室の移設により健診部門の事務スペースは手狭になり、別府市に交渉の結果、保健センター内の別府市利用スペースの一部を追加借用することができたが、限られた空間の中で創意工夫しながら健診事業を実施している。委託事業実施中はトータルで大幅な増収増益を見込めたものの、令和5年度は前年度に比して一転減収減益となっており、コロナ禍という特殊な状況であったため一概には比較できないものの、健診の検査結果をスマートフォンへ報告するしくみ「CARADA」は受診者からも好評価であり、営業を強化していくうえで有効なツールとなることから今後のさらなる普及と展開が期待される。

看護教育では、全日制3年課程の2回生42名が入学し、募集を停止した2年課程最後の学生（36回生）と3年課程（1回生・2回生）の学生が混在する移行期の最終年度となった。今年度は、とりわけ旧施設解体及び事務所棟補修工事により、工事中の騒音や代替教室への移動、実習室や休憩室への導線変更等、学習環境という面では外部講師を含め教職員・学生には大きな制約があったが、教職員の尽力により36回生（26名）の第113回看護師国家試験の結果は25名の合格であり、3月5日には別府市公会堂で卒業式と閉科式を実施した。今後も、本校を卒業した看護師が地域医療のために会員の先生方の手助けとなり、即戦力となって力を発揮することが出来るよう努力する所存であり、優秀な教員の確保と研修、より学習指導の行きやすい環境づくり、施設設備の充実など諸費用のかかる問題が多いものの、看護師の養成は医師会が地域医療に果たす責務でもあるため、会員各位にはご理解いただきたい。

地域福祉部門は、昨年度からの脆弱な管理体制が影響し、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、ヘルパーステーション3部門総じて利用状況は昨年度に比較して減収減益となった。大きな要因は営業活動が充分でなく、各関係機関への受け入れの周知が不足していたことや職員の思いや考えを優先した状況に起因しており、今後は職員の意識改革に加え、利用者本位のケア、教育や利用者獲得のための活動を日々実践することで、会員や関係機関からの信頼を回復する必要があるが、その一環として訪問看護ステーションの管理者交代を行った。経営・管理体制は厳しい状況が続いているが、関係役職員一丸になって体制を立て直しつつ、地道に新規利用者数を増やしていく所存であるので、会員諸賢には一層の利用についてご協力をお願いしたい。

なお、事業遂行の詳細については、各部門の報告をご参照いただきたい。

〈総 務 部〉

庶 務

令和5年4月7日、令和5年度第1回臨時総会を開催し「令和5年度事業計画」と「令和5年度予算」を報告した。同時に、令和4年度には別府市PCR検査センターの検査受託や臨時的に発熱外来を開設したことにともない、人件費・試薬費、施設使用料等の支出が大幅に増加したため、予算の補正が必要になったことから「令和4年度地域保健センター補正予算」、「令和4年度初期救急医療事業補正予算」を報告した。

令和5年6月28日に開催した第77回定時総会では「令和4年度決算」が承認された。令和5年度の入退会については入会16名、ご逝去2名を含む退会は15名、全体の会員数は300名となっており、若干の増減はあるが会員数は300名を維持できるかどうかの瀬戸際が続いている。別府市医師会選出の大分県医師会代議員数は7名であるが、大分県医師会定款施行規則により300名を下回ると代議員数は1名減の6名となるため、別府市医師会の発言力を維持するためにも300名は死守しなければならないラインであり、今後も引き続き卒後5年間の若手医師に対しては会費減免というメリットを広報していくとともに、基幹病院勤務医師へ入会の働きかけを強化し、会員数を増やしていく努力が必要となる。

事業に関しては、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したということもあり、令和4年度まで変更や縮小、中止を余儀なくされた事業を出来るところから少しずつ再開させる方向で、都度、理事会で協議した。コロナ禍を通して、会議はZoom等を利用したWeb会議が通常となっており、昨年度に引き続き、理事会の開催されない水曜日の午後には、会長、副会長、各部門の担当部長、管理者および関係職員が参加し各部門15分ずつの割り当てで、部門における現状と課題をZoom上で報告し意見交換する部門別連絡会議を行ったが、これにより通常の部門会議や運営連絡会という機会を待たずに、理事が部門の現状を速やかに把握することが可能となった。

施設管理の面では、平成28年4月の熊本地震以来、耐震性に問題がありつつも手つかずであった旧施設（地域保健センター棟＝昭和39年築、准看護学科棟＝昭和54年築）の解体ならびに事務所棟（平成元年築）補修工事を5月から11月末まで半年間かけて実施した。工事はしげる設計一級建築士事務所の設計監理のもと、株式会社平野工務店が元請施工業者として実施し、解体工事を株式会社クリーン・アップ、電気設備工事を交永電気工事株式会社、給排水衛生設備工事・空調設備工事を株式会社コーボウ設備工業が担当した。

工事にあたっては、工事前に検査室等旧施設内に残置する必要物品の移動と希望する医療機関への無料配布、廃棄物処分業者の決定と処分、中庭駐車場への出入禁止にともなう代替駐車場の確保、可燃物・不燃物置場の移動、警備システム（セコム）の接続再設定、接続部の仮間仕切り設置、キュウビクルの新設、解体祭（神事）等を経て5月末より解体工事に着手した。解体工事は大きな解体音が出たため近隣住民のほか看護学校の外部講師からも苦情があり、一部の授業については別府市公会堂や別府市社会福祉会館を借用するなどの措置をとった。この他、看護学校へつながる電話線や地域福祉部門LAN配線の切断、接続部からの雨漏り、自動火災報知設備工事の誤作動といったトラブルが続き、停電作業や断水作業も繰り返し必要になったことから、職員のみならず会員を含めた来館者にも少なからずご迷惑をおかけした。進捗状況については、月に2回のペースで設計事務所および施工業者と関係役職員とで打ち合わ

せを行い現状と問題点等を情報共有し、施設解体及び跡地検討委員会において役員に報告のうえ、外壁の色、新設駐車場のラインどり確認のほか、アスベスト含有建材の除去費用、自転車置き場の移設等、工事にもなう追加費用の発生等について決裁を仰いだ。

本工事は、解体する旧施設と現在使用している事務所棟が接続されていたため、接続部において電気設備系統、空調設備・給排水設備系統が複雑に絡み合った構造となっており、それがどのような系統で接続されているか過去の設計図書からだけでは判然としない部分もあり、やってみないと分からないという綱渡りの作業が続くなど順調には進まない工事ではあったが、当初の予定どおり11月末に工事が無事完了し業者から引き渡された。本工事にかかった費用は追加費用等を含めて約8,000万円であり、防災上の安全面を考慮してやむを得ない側面もあったとはいえ非常に大きな支出を余儀なくされたことから、今後は、施設管理だけにとどまらず各事業の継続性を担保するために、費用対効果の検証は当然ながら経費削減を考慮しつつ、緊張感をもった事業戦略において予算の選択と集中、弾力的な事業運営等更なる創意工夫が必要である。

- 令和5年4月7日 別府市医師会（令和5年度第1回）臨時総会
- 26日 総務部門会議
- 5月8日 第10回旧施設解体及び跡地検討委員会
- 17日 別府市医師会館旧施設解体祭
- 26日 全体協議会
- 6月11日 一般社団法人大分県医師会第223回定例代議員会
- 19日 第11回旧施設解体及び跡地検討委員会
- 28日 一般社団法人別府市医師会第77回定時総会
- 8月21日 第12回旧施設解体及び跡地検討委員会
- 23日 速見郡杵築市・国東市医師会との懇談会
- 9月14日 第13回旧施設解体及び跡地検討委員会
- 10月16日 第14回旧施設解体及び跡地検討委員会
- 28日 市民と議会との対話集会
- 11月13日 第15回旧施設解体及び跡地検討委員会
- 令和6年2月8日 別府市保健行政に関する協議会
- 3月11日 国公立病院との懇談会

学 術

4月の学術部会において学術事業の年間予定を協議検討し、今年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行ということもあり感染状況にとらわれることなく、より多くの参加者にご参加いただくため、前年度までのZoomを利用したWeb参加と会場参加（医師会館視聴覚室）を併用したハイブリッド型を前提としつつ、年2回開催の医療安全管理対策研修会は別府市公会堂大ホール、学術集会は5年ぶりに別府市保健センター（湯のまちけんこうパーク）にて開催し、11月には久留米大学、九州大学病院別府病院、大分大学から講師をお招きして4年ぶりにメディカルセミナーを開催し、コロナ禍前と同様に年7回の学術事業を遂行した。

4月の学術研修会では慢性心不全診療について、最近のトピックスである「ガイドラインに基づく標準的心不全治療」や「fantastic four」、自己管理や地域連携に係る「ハートノート」をキーワードにご講演いただき、7月の学術研修会ではリウマチ膠原病内科医による慢性多関

節炎疾患診療について、疾患の種類、病態と治療、Webアプリの活用についての3つを中心に講演が行われた。9月の学術研修会では、急性期脳卒中診療について脳梗塞診療を中心にご講演いただいた。

年2回開催している医療安全管理対策研修会については11月と1月に開催し、第1回目は医療安全に関する最近のトピックスとして、「患者の意思決定について」および「サイバーセキュリティ」の2つを柱として講演が行われ、第2回目は2名の講師より①バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）と手指消毒液の使用量の相関関係、②針刺し事故によるB型肝炎の実態や事故発生後の対処方針について講演が行われ、2回とも実際の現場に即した内容であった。

2月末に開催している学術集会については、ここ数年制限していた演題数の制限をなくし、医師会の委員会報告を含む11題の一般演題と特別講演からなる構成とし開始から終了までを3時間とした。特別講演は大分大学医学部看護学科の加隈哲也教授に「肥満2型糖尿病の薬物治療－量的改善と質的改善の両立を目指して－」という演題でご講演いただき、糖尿病薬の適応外使用、肥満と関連した糖尿病の薬物療法、生活指導としてリブレ（持続血糖測定器）の使用や体重を維持するための運動などによる実践的な内容であった。

今年度の学術事業は学術研修会をハイブリッド開催、その他を会場参加型としたが、Webや会場参加型に関わらず学術事業は、日々進歩する医学や変化する医療情勢に関する最新の情報を会員に提供することにより、会員のさらなる医学知識の充実とスキルアップを目的としている。研修会・講演会の内容や開催方法などについて、いろいろとご意見をいただければ幸いである。

日時	集会名	テーマ	講師	出席者数
令和5年 4月24日	学術研修会	「慢性心不全診療 up to date」	国家公務員共済組合連合会 新別府病院 循環器内科部長 渡邊 圭祐 先生	会 員 24 名 一 般 1 名
7月24日	学術研修会	「リウマチ膠原病内科医による慢性多関節炎疾患診療の解説」	九州大学病院別府病院 免疫・血液・代謝内科 柏戸 佑介 先生	会 員 17 名 非会員 2 名
9月12日	学術講演会	「急性期脳卒中診療の最前線－脳梗塞診療を中心に－」	大分県厚生連鶴見病院 神経内科 竹丸 誠 先生	会 員 19 名 非会員 1 名 一 般 1 名
11月25日	メディカルセミナー	①「関節リウマチの治療の進歩と残された課題」 ②「アトピー性皮膚炎の病態と治療～大分大学での取り組みを中心に～」 ③「補助循環はおもしろい」	①九州大学病院別府病院 内科 講師 三苦 弘喜 先生 ②大分大学医学部皮膚科学講座 教授 波多野 豊 先生 ③久留米大学医学部外科学講座 心臓血管外科 主任教授 田山 栄基 先生	会 員 13 名 一 般 6 名
11月27日	第1回医療安全管理対策研修会	「医療安全に関する最近のトピックス」	大分県厚生連鶴見病院 病院長 加賀 明彦 先生	会 員 19 名 一 般 34 名
令和6年 1月23日	第2回医療安全管理対策研修会	①「VREについて～手指衛生していますか～」 ②「B型肝炎について～針刺し事故を中心に～」	国家公務員共済組合連合会 新別府病院 ①感染対策管理室 特別専門役 感染管理認定看護師 稲田 志信 氏 ②診療部長・肝臓内科 香川 浩一 先生	会 員 17 名 一 般 40 名
2月17日	別府市医師会学術集会	一般演題「11題」 特別講演 「肥満2型糖尿病の薬物治療－量的改善と質的改善の両立を目指して－」	大分大学医学部看護学科 基盤看護学講座健康科学領域 教授 加隈 哲也 先生	会 員 19 名 非会員 12 名

保 険

令和5年度は翌年の診療報酬改定を控え、特に大きな動きはなかったが、マイナンバーカードを活用する事例に関する動きや、コロナ流行による鎮咳剤等の薬不足が起きた。

マイナンバーカード関連としては、想像していたとおり、当初は資格確認が出来ないなどのシステム障害が起きていたが、現在は特に問題はなさそうである。新たに福祉関係で、居宅でのオンライン資格確認が出来る仕組みが令和6年4月の開始に向け動き出した。またほぼ同時に生活保護法による医療扶助に関してもオンライン資格確認が令和6年3月より開始されることとなった。しかし、現状はいまだにマイナンバーカードでの受診を希望する者は少なく、国は利用率を上げるべく医療機関向けのキャンペーンを行い、利用率向上を目指しているが、利用者の意識が変わらない限り難しいのではと感じる。

薬品不足は、年間を通して続き、武見厚生労働大臣が薬品会社に対する働きかけが行われたが、未だ解決されていない。早期の薬不足解消を望む。

コロナ特例が令和6年3月31日をもってほぼ終了となり、6月からはコロナ前の体制になる。発熱者を診療した場合に算定出来る加算が、大分県との医療措置協定を結んだ医療機関のみが算定できる発熱患者等対応加算（ひと月に1回20点）と、協定を結ぶために必要となる外来感染対策向上加算（ひと月に1回6点）だけとなる。

いずれも届け出が必要となるため、算定を希望する医療機関は注意が必要である。

令和6年度は診療報酬改定が行われる。様々な加算が新設されたが、いずれも点数・内容ともに微妙な内容となっている。会員の先生方はじっくり考察した上での算定をお願いしたい。また、レセプトの返戻が、10月からはオンラインによるデータでの返却となる。国としては、オンライン資格確認の仕組みを利用した自院からのオンライン請求への変更をお願いする電話を行っているようである。

別府市医師会の代行送信を利用している医療機関は、データが別府市医師会のIDに対してまとめて返却される動きとなるようで、データはゆけむり医療ネットを介して、もしくは持参し、データを自院のレセコンに取り込み請求するかたちとなる。現在、ほとんどの医療機関でオンライン資格確認のシステムが導入されており、その仕組みを使って自院からのオンライン請求が可能となることから、今後の動きを検討している。利用している医療機関へ、別府市医師会としてどの様に対応するか検討し、早急に方向性を示したいと思う。

個別指導は、今までどおりと指導の内容に変化はない。カルテへの記載を中心に指導されることがほとんどである。より一層留意し、漏れなく記載を心掛けていただきたい。

令和5年 4月19日	個別指導
5月19日	第5回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（Web）
8月18日	第6回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（ハイブリッド）
令和6年 1月18日	個別指導
2月16日	第7回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（ハイブリッド）

会 員 福 祉

今年度の会員福祉事業は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したこともあり、ここ数年延期・中止を余儀なくされていた各事業については、感染状況を注視しつつ少しずつ再開させる方向で検討を重ねた。

コロナ禍前、例年7月末に開催していた夏のレクリエーションについては、懇親会の参加者数が100名近くに予想されることや会場の手配困難等により、状況を総合的に考慮した結果、今年度の再開は時期尚早と判断し中止を決定した。令和6年度は開催する方向で現在準備中である。

令和元年度の開催を最後に開催できていない下関市医師会との親善スポーツ大会については、開催にあたって、現状としてソフトボール（令和元年度は野球）、テニスの参加者が少なくスポーツ大会として競技の実現が見込めないこと、ボウリング場の手配が難しいことを踏まえたうえで、事業の継続是非、開催方法等について、過去に参加歴のある会員（40名）に対してアンケートをとり35名からの回答（継続したほうがよい（7名）、やめることも止むを得ない（15名）、どちらでもよい（13名））をもとに、下関市医師会と協議した結果、長年の交流と親睦に鑑み、スポーツ競技の開催を前提とせず懇親会をメインにお互いの交流は継続するという認識を共有するに至り、11月に懇親会とゴルフのみの開催を調整していたが先方の都合により一旦延期となり、年度内の開催を模索していたものの最終的には調整がつかず中止となった。

一方で、三師会合同役員会（別府市薬剤師会担当）、忘年会、新年会については、コロナ禍前と比較して参加者は減ったものの4年ぶりに開催に漕ぎ付けた。

忘年会はお互いの情報交換や歓談を交え和やかな雰囲気の中、イベントとして中国伝統芸能の変面・手品師によるマジックショーが行われ、岡田会長の軽妙な司会により5銘柄の缶ビールの味を当てる利きビール、会員ご夫婦による目隠しでのサンタクロース衣装の着せ付け等を行うなど会場を多いに沸かせた（参加者は43名（会員34名、夫人9名））。

新年会では、主催者と来賓あいさつ、表彰のあとコロナ禍（令和2年～5年度）で開業・入会した会員の紹介を行い、歴代会長3名による鏡開後、乾杯・開宴となり津軽三味線奏者による三味線演奏が場を盛り上げた（参加者は来賓8名、80歳以上・賀寿の招待者6名、一般会員45名の合計59名）。

ここ数年、会員同士の情報交換や親睦を深める場でもある懇親会をとまなう行事の中止が続いたために、会員間においてスムーズな意思疎通がはかれなかったことは事実であるが、忘年会や新年会では、逆にコロナ禍を経験し共闘したゆえに普段は意識しない会員同士のヨコのつながりの重要性を再認識することにもなった。

目下、本会では別府市における初期救急医療体制の在り方を検討しているが、地域医療を担う会員同士の連携や協力は今まで以上に重要となるため地域連携構築の一助としても医師会行事にご参加いただければ幸いである。

- 令和5年 4月20日 令和5年度第1回会員のための医業経営セミナー（大分県医師会）
- 5月14日 三師会親睦ゴルフ会
- 14日 第103回親睦ゴルフ大会（大分県医師会）
- 8月27日 第106回会員親睦囲碁大会（本因坊戦・一般戦）（大分県医師会）

- 8月31日 大分県医師会医業経営セミナー（大分県医師会）
- 10月1日 第27回会員親睦将棋大会（大分県医師会）
- 15日 第104回親睦ゴルフ大会（大分県医師会）
- 20日 三師会合同役員会
- 11月23日 三師会親睦ゴルフ会
- 12月5日 別府市医師会忘年会
- 令和6年1月11日 別府市医師会新年会
- 2月1日 大分県医師会医業経営セミナー（大分県医師会）
- 25日 第14回ドクター・コンサート（大分県医師会）
- 3月10日 第107回会員親睦囲碁大会（第33回国手杯争奪戦）
- 20日 第6回全国医師ゴルフ選手権大会（チャンピオン戦）

広 報

会報委員会において編集会議を行うとともに、会報委員会メーリングリスト（ML）において情報交換を行って議論を重ね、医師会報の充実に努めた。

別府市医師会報は、①医師会の主張と広報、②医師会活動の正確な記録、③医師会員の医療活動への意識の啓発、この3点をめざし、年に4回の発刊を続けている。

「私のお気に入り」では、「バイオリンとともに」（新緑号）、「女ともだち、アート、湯治」（秋季号）、「未完の大作」（新春号）と題して執筆していただいた。

「ちょっとお勉強タイム」では、「子宮頸がんワクチンについて」（新緑号）、「膵癌死亡率を改善するために、かかりつけ医ができること」（夏季号）、「マイナンバー法と医療DXの問題」（夏季号）、「外国人労働者と人権 - 移民社会はもう始まっている -」（秋季号）など診療に直結する身近なことや医療制度等幅広く執筆者の方々から問題提起していただいた。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したということもあり、懇親会をともなう会員福祉事業の報告については少しずつ誌上掲載を再開している。各号の頁数はコロナ前に比して少なくなってきており、加えて随筆の投稿も減少してきている。医師会報が会員の先生方への情報提供・共有ツールとしての役目を担い、編集部一同協力して医師会報の内容充実につとめていきたいと考えているので、引き続き、御意見御要望なども含めてご協力をお願いしたい。

- 令和5年5月9日 夏季号 編集協議会
- 8月8日 秋季号 編集協議会
- 11月7日 新春号 編集協議会
- 令和6年2月1日 新緑号 編集協議会

医 政

令和5年4月は統一地方選挙が行われた。前半戦の大分県知事選挙では、平成15年より5期20年知事を務めた広瀬勝貞氏が引退し、20年ぶりに新人同士による一騎打ちの選挙戦が行われ、結果、別府市医師連盟が推薦・支援した前大分市長の佐藤 樹一郎氏が前参議院議員の安達 きよし氏を圧倒し1期目の当選を果たした。

また、前回（平成31年度）、無投票に終わった別府市長選挙については、8年ぶりに選挙戦となり、別府市医師連盟が推薦した現職の長野 恭紘氏が万全の体制で選挙戦を優位に進め新人候補に大差をつけて3期目の当選を果たしたが、対立候補においても現市政に対する反対票として一定程度の得票があったことから、3期目を迎えた長野市政に対しては、その政策について本会としても是々非々で注視する必要がある。

夏には、安達きよし参議院議員の辞職にともなう参議院議員選挙（大分選挙区）の補欠選挙が行われた。選挙戦は大分県医師連盟が推薦する自由民主党の新人候補白坂 あき氏と立憲民主党の元代表吉田 忠智氏による与野党一騎打ちの構図で、双方、党の幹部が候補の応援に何度も大分入りするなどの激戦となり、結果、白坂氏が吉田氏に僅差で競り勝った。補選ということで白坂氏の任期は安達氏の残任2年間となるが、令和7年の参議院議員選挙では、再度、吉田氏が立憲民主党公認候補として捲土重来を期し出馬することが既に決定している。

9月には日本医師連盟が推薦して令和4年度の参議院議員で2期目の当選を果たした自見はなこ氏が第2次岸田第2次改造内閣において内閣府特命担当大臣として初入閣し、沖縄及び北方政策、消費者及び食品安全、地方創生、アイヌ政策、国際博覧会（関西万博）等を担当することとなった。自見氏の入閣と同時に、かつて日本医師連盟の組織内候補を務めた参議院議員の武見敬三氏が厚生労働大臣に就任したが、日本医師連盟と強い関係性のある議員が2名も閣僚になったことが追い風となったこともあってか、令和6年度の診療報酬改定では、全国の医師連盟の結束で本体部分プラス0.88%を勝ち取り、過去3年間のコロナ対応における貢献が認められるかたちとなった。

令和7年度の参議院議員選挙比例代表区では、これまで、日本医師連盟の組織内候補として2期12年務めた羽生田 たかし氏が引退し、新型コロナウイルス対策において日本医師会として陣頭指揮をとった常任理事の釜薙 敏（かまやち さとし）氏の立候補が決まっており、別府市医師連盟としても推薦を決定した。

医師連盟としては、診療報酬について「改定率は最終的には政治で決まる。」というスタンスを堅持する必要があるか、そのためには日常から政治にしっかり働き掛けていくこと、組織として一致して取り組んでいくことが重要であり、日々の継続的な医政活動が診療報酬改定や選挙戦に影響してくる。

今後も、医療・福祉・介護の充実はもちろん、医師会活動をスムーズに進めていくためには、医政が重要であり、会員各位の御理解、御協力をお願いします。

令和5年4月12日 自由民主党演説会

会 計

令和5年度正味財産の経常増減（損益ベース）は、全体で約7,800万円減少となった。

旧施設の解体撤去費用が大きな要因である。部門間の繰り入れを除くと看護学校が約1,230万円減少、地域福祉部門が約1,150万円減少した。地域保健センターは約1,890万円減少、初期救急医療事業は約550万円増額となった。

収支では事業活動収支は全体で7,724万円のマイナスである。

部門別にいくつかの要点を示す。

本会：事業活動収支は、約836万円のマイナス。看護学校二年課程に1,200万円、地域福祉部門に1,000万円の繰り入れを行ったことが要因である。施設管理会計では旧施設の解体撤去費用等7,866万円を支出した。

地域保健センター：健診事業は、前年と比較すると約300万円の増収となり事業活動収支は約280万円のプラスであった。

初期救急医療事業：夜間こども診療の受診者数は、前年より1,000件以上増えており約60万円のプラス、休日内科診療は、新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザ流行のため受診者数が増え、約530万円のプラスであった。

看護学校：二年課程は、3年生1学年の運営であったため、運営補助として本会から1,200万円の繰り入れを行った。三年課程は、授業料・入学金等の増収により補正予算を行い教材備品等を購入した。

地域福祉部門：三部門の収支は約1,080万円のマイナス、本会から1,000万円の繰入を行った。部門間の繰り入れを除くと訪問看護ステーションは、約512万円、居宅介護支援センターは約374万円、ヘルパーステーションは約194万円のマイナスとなる。

団体生命保険：今年度は150万円を本会へ繰り入れた。

詳細は各部門の収支明細書に示す。

令和5年6月2日	会計部会
5日	会計並びに業務監査
12月7日	会計部会（部門別予算会議）
13日	会計部会（部門別予算会議）
令和6年1月26日	会計部会
2月14日	会計部会

医療情報

平成17年度より懸案事項であった会員各施設をNTTの光回線を利用したプライベートネットワーク網が平成22年度に完成し、14年目を迎える。医師会業務システムと地域医療連携システムの2本柱である「ゆけむり医療ネット」が本格的に稼働している。令和5年度インフラ整備としては、希望する79施設のうち71施設に光回線を整備している。また、地域医療連携システムでは、新別府病院・別府医療センター・厚生連鶴見病院が急性期医療分野として情報を公開しており、平成25年度から九州大学病院別府病院が加わった。地域保健センターも、健診画像データや検査データを二次的に有効活用するため基幹病院同様に地域医療連携システムに公開している。平成27年度には「地域医療介護総合確保施設設備整備事業」として薬剤師会と共同で整備し、市内の薬局67施設中65施設が接続して、院外調剤情報を集積して「ゆけむり医療ID」で参照できる仕組みを整えた。4つの基幹病院と健診・検査センターの情報、院外調剤情報が患者個人の同意の基に共有できるようになっている。さらに東部医療圏（日出町・杵築市・国東市）や在宅医療などへの接続が可能となる仕組みを取り入れ、18の医療機関にモニターとして参加してもらっている。更に北部医療圏の2施設がモニターを希望したため接続している。東部医療圏に所属する医師会とも話し合い、速見郡杵築市医師会と契約を交わし、年間利用料をいただいている。

基幹病院から医師の記録（カルテ情報）が公開されており、退院する際に患者から同意を取り、かかりつけ医へ公開する運用を取り入れ、カルテ参照率が上がってきている。

令和5年度は引き続き診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムとしてスマートフォンのアプリケーションソフトを使用した患者主体の関節炎スクリーニングツールを利用した実証研究が令和5年12月に終了した。関節痛の症状がある人にアプリを通じて問診票に答えてもらうと紹介状が自動的に作成される仕組みとなり、専門医受診の際にその問診票のIDを伝えれば紹介状のデータがパソコン内に表示される仕組みは患者にとっては問診票の記載が不要になり、専門医は紹介状のデータを見ながら必要な分の聞き取りだけで済むようになるため、スムーズな受診が実現できた。今後はこの仕組みを応用して重症化予防事業に活用できればと考えている。

医療情報システムネットワーク委員会では国の方針において「全国医療情報プラットフォーム」「電子カルテ情報の標準化」「診療報酬改定DX」という医療DX推進の三本柱との比較においてゆけむり医療ネットの立ち位置についてディスカッションをしている。国が運用する全国医療情報プラットフォーム（PF）とゆけむり医療ネットの情報項目との比較が「データヘルス改革に関する行程表」どおりに進み、ゆけむり医療ネットの情報と重複する部分が多くなれば縮小化していくしかないが、地域に必要な多職種連携やPHR部分の重症化予防事業などは残っていくと考えられるので必要な情報の質と量をゆけむり医療ネットで補いながら利用できる環境で当面は様子を見ることとなった。

また、ゆけむり医療ネットの参照側の接続方式の変更案が示され、現在のIP-VPN方式で接続している機器の老朽化から更新すると1施設にVPNルーター機器の費用が50,000円かかることから昨年度よりインターネット上からつながる方式を検討中であるが、富士通社よりTLS2.0方式が医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版で推奨されており、これを利用するとインターネットにつながる環境から端末に証明書をインストールするだけで接続できるため、IP-VPN回線の利用料が必要なくなり、更にVPNルーター機器の更新費用

も不要となる。今まで会員が IP-VPN 回線の利用料を NTT 西日本に支払っていた分を医師会へ利用料として支払ってくれることにより運用費に回せることから経費の軽減につながるため、来年度に向けてこの接続方法で整備していくことになった。

医療情報委員会では基幹病院から情報提供側の負担もかなりあり、費用負担を減らしてほしいと要望があったため、令和 6 年度より情報提供側の費用負担をゼロにして参照側より受益者負担の考えから会員は月額 3,000 円（2 端末まで）とし、非会員は月額 3,500 円（2 端末まで）を徴収する方向になった。

また、令和 2 年度より使用している、医師会から市民・患者向けに情報配信を行うスマートフォン向けアプリ「ゆけむりあんしんパレット」について、医師会から市民・患者向けに配信するコンテンツが十分でなく、活用が出来ていないことから、今後は別府市医師会員向けに改修して行事予定や理事会報告などを配信し、会員が活用できるアプリへ変更することが提案された。

その他では、地域保健センターの健診結果をスマートフォンへ報告する取り組みを開始し、現在では個別の医療機関で受診したデータも反映できるようになった。個人で健診や薬のデータを管理できる PHR の仕組みづくりを進めていき、自分の意思で各機関に提示することは究極のプライバシー保護につながり、同意書の取得を簡素化したいと考えている。

【医療情報委員会】※ Web 会議（Zoom）

令和 5 年 12 月 14 日（第 1 回） 令和 6 年 2 月 13 日（第 2 回）

【医療情報システムネットワーク委員会】※ Web 会議（Zoom）

令和 5 年 11 月 6 日（第 1 回）

【地域医療連携パス委員会 CKD 班】

令和 5 年 6 月 27 日（第 50 回）	7 月 28 日（第 51 回）	8 月 29 日（第 52 回）
9 月 26 日（第 53 回）	10 月 24 日（第 54 回）	11 月 28 日（第 55 回）
令和 6 年 1 月 30 日（第 56 回）	2 月 29 日（第 57 回）	3 月 26 日（第 58 回）

【地域医療連携パス委員会糖尿病班】※ Web 会議（Zoom）ハイブリッド

令和 5 年 9 月 13 日（第 6 回） 令和 6 年 2 月 27 日（第 7 回）

【地域医療連携パス委員会リウマチ班】※ Web 会議（Zoom）

・診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムワーキンググループ検討会

令和 5 年 4 月 26 日（第 18 回）	6 月 14 日（第 19 回）	7 月 11 日（第 20 回）
8 月 17 日（第 21 回）	9 月 21 日（第 22 回）	10 月 19 日（第 23 回）
11 月 29 日（第 24 回）		
令和 6 年 1 月 31 日（第 25 回）		

《地域保健センター部》

地 域 保 健

① 別府地域保健委員会

「別府地域保健委員会」は昭和44年に県下で初めて発足して以来、別府市の保健行政を支えてきている。この間、医師会は会員の協力のもと、主導的な立場から行政に対し保健・医療・福祉の幅広い分野で支援と助言を行ない、地域の保健医療活動の充実・発展に大きく貢献してきた。

平成16年6月に別府地域保健委員会総会で設置が承認された「別府地域保健運営委員会」は毎月1回開催され、行政側と協議を重ね、保健行政に関して医師会の意見を述べることにより市民の健康増進に寄与している。

各小委員会活動については平成24年度より食育をテーマに妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を目的に食育推進小委員会が追加された。

別府地域保健委員会

令和5年8月23日 別府地域保健委員会総会（ハイブリッド開催）
8月29日 大分県地域保健協議会総会

別府地域保健運営委員会

令和5年4月25日・6月26日・7月31日・8月28日・9月25日・10月23日・
11月20日
令和6年1月18日・2月26日・3月25日

各小委員会

1. 母子保健小委員会（令和5年7月19日）

母子健康手帳の交付、訪問指導の実施、健康診査（乳幼児集団健康診査）の実施、健康相談、教育の実施 医療対策事業（未熟養育医療の給付、不妊治療費等助成事業）、保健所療育事業、育児不安フォローアップ事業、ヘルシースタートおおいた推進事業

2. 学校保健小委員会（令和5年7月18日）

児童・生徒の生活習慣病予防健診、小児生活習慣病健診事後指導、たばこ対策、思春期対策、定期健康診断結果

3. 健康づくり対策小委員会（令和5年7月18日）

健康増進法に基づく保健事業（①健康手帳交付、②健康教育、③健康相談、④健康診査、⑤訪問指導）、各種がん検診（受診者数、要精密者数）特定健康診査・特定保健指導（受診者・受診率・推移）

4. 感染症予防小委員会（令和5年7月21日）

予防接種年度別実施状況、MR 予防接種率、予防接種の普及・啓発、平成29年度一般結核検診状況・結核検診要精密者の状況

5. 歯科保健小委員会（令和5年8月1日）

歯のコンクール、母子歯科保健（1歳6カ月、2歳6カ月、3歳5カ月）、健康教育、健康相談、成人老人歯科保健、妊婦歯科健診、公立保育所・公立幼稚園・小学校でのフッ化物洗口の取組み、歯と口の健康週間行事、各小学校へのポスター、チラシ配布啓発事業

6. 救急医療対策小委員会（令和5年7月20日）

休日在宅当番医制実施事業（初期救急医療）、第二次救急病院群輪番制事業（8医療機関が輪番制で実施）、小児救急医療支援事業（小児第二次救急医療）、小児初期夜間救急医療事業（夜間こども診療・夜間こども薬局）、休日等歯科診療事業、救急搬送状況、献血の普及・啓発

7. 精神保健対策小委員会（令和5年7月28日）

自殺予防対策（自殺予防の普及・啓発、ゲートキーパーの育成、地域での連携体制の構築、地域における相談機能の充実）、予防対策に向けた啓発、取組み

8. 食育推進小委員会（令和5年7月27日）

妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を実施。また、各世代共通として広報等の実施。

② 保健行政に関する協議会

昭和50年から始まった「別府市との保健行政に関する協議会」は、コロナ禍の中断はあったが今年度4年ぶりに開催し、今回で47回目となった。

今年度は別府市の主催で、別府市からは阿部副市長をはじめ関係部・課長が出席し、令和6年2月8日に開催された。

医師会から、（1）初期救急医療体制について、（2）災害時の救急医療体制について、それぞれ岡田会長が現状と問題点を説明し、下記のとおり市から回答があった。

（1）初期救急医療体制について

別府市の休日当番医制が、医師の担い手不足等様々な要因で維持が困難になってきていることに関して、①保健センターを休日診療所として使用すること。②保健センターについては用途を満たすため必要最小限の改装を市で行うこと。③運営、医師等の手配については別府市医師会に委託。以上3点を市と医師会の双方で確認の上、令和6年度より保健センターの改修を実施。休日診療の完全なセンター化については、改修の進捗状況や休日診療を自院で希望する医療機関もあることから今後の状況を注視しながら医師会と協議・検討し、休日診療を担当する医師の人件費等の委託料については、実情に合わせた内容になるように精査する予定である。

(2) 災害時の救急医療体制について

市と医師会との間では、平成12年に「災害時における緊急医療体制についての協定書」を締結しているが、その後、東日本大震災など甚大な自然災害が度々発生しており、本協定の果たす役割は重要であると認識しているものの、20数年経った現在も見直しが行われていないため、現状にそぐわない点も出てきている。平成31年3月に作成された「大分県医師会災害医療マニュアル」に郡市医師会の活動が示されていることもあり、実情に応じた活動等、今後の詳細や方向性について医師会災害担当理事と協議させていただく。

③ 予防接種

令和5年度は、引き続き新型コロナワクチン接種が行われ、定期接種としては最後となった。接種に関する大きなトラブルもなく、接種者に関しても徐々に減ってきた。次年度は、インフルエンザと同様に高齢者は国・県の補助があるかたちでの接種、高齢者以外は任意接種となる方針が示され、報道では個人負担が7,000円程度とのことであるが、現段階ではもう少し負担が抑えられ、またインフルエンザワクチンとコロナワクチンの二種混合の様なワクチンになるとの話もある。詳細が判り次第、説明会等を実施し、情報提供を行いたいと思う。

また、任意接種ではあるが、急遽、別府市の肝入りで令和6年2月より带状疱疹ワクチン接種が開始された。各医療機関で設定された金額に対し、生ワクチンは1回のみで5,000円、不活化ワクチンは2回補助が行われ、1回につき10,000円を市が補助を行うかたちで開始され、次年度も継続される。

定期接種に関しては、次年度は大幅な変更が行われる。

四種混合ワクチン（ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオ）にH i b ワクチンが追加された五種混合ワクチン接種が4月より開始され、小児用肺炎球菌ワクチンに新たに15価が追加されたこと、また、高齢者肺炎球菌ワクチン接種の対象者が65歳以上の5歳刻みの年齢の際に接種が可能とする経過措置が10年を経過したことから、今年度より65歳の方のみとなった。今回は大幅な変更となったことから、3月に4年ぶりに予防接種説明会を開催し、情報提供を行った。

今後も様々な変更・追加が予想されることから、情報を精査し、確かな情報を素早く提供していく所存である。

地 域 医 療

平成23年3月11日に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）により、多くの尊い人命が失われ13年となるが、地震による死者・行方不明者数は2万人以上にものぼり、戦後最悪の被害をもたらした。被害の多くは「津波」によるものだった。地震関連では平成28年4月14日に熊本県で震度7を観測した「熊本・大分地震」が発生した。その後16日に再び震度6強が2度起き、大分県でも由布市・別府市を震源とする震度5弱が3度も起きた。一連の地震は熊本県に甚大な被害を与え、大分県にも深い爪痕を残した。

平成30年9月6日に北海道胆振地方中東部を震源として発生した地震で最大震度は震度階

級でもっとも高い震度7で、北海道では初めて観測された。また、今年の令和6年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、石川県志賀町では最大震度7を観測した。気象庁は翌日午後はこの地震について、「令和6年能登半島地震」と名付た。地震に名前が付けられるのは「平成30年北海道胆振東部地震」以来6年ぶりとなった。

令和6年3月5日14時00分現在、人的被害1,540名（死者241名、負傷者1,299名）、住宅被害81,717棟（全壊8,027棟、半壊13,668棟、床上浸水6棟、床下浸水19棟、一部破損59,997棟）が報告された。最近では4月17日に豊後水道を震源とするマグニチュード6.6、深さ39kmと推定される地震が発生し、愛媛県と高知県で最大震度6弱、愛媛県震度5強、大分県南部で震度5弱を観測した。周辺では地震活動が活発な状態が続いていて、気象庁によると発生から一週間震度1以上の揺れを観測した地震は60回にのぼっており、気象庁は以前に比べ地震の回数が増えているため、引き続き注意が必要だとしたうえで、南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくない状況に変わりはないとコメントを出している。

別府市は幸いにも大きな被害はなかったが、中央構造線断層帯が伊予灘から別府湾に伸びており、別府湾から熊本・大分県境まで延びる別府-万年山断層帯が別府市の真ん中を通っており、前回の「熊本・大分地震」で震度5を越える地震が4度も起きていることから今後の地震対策が必要とされる

このようないつ起こるか分からない地震などの災害に備え、関係機関との連携や市民救急フォーラム等での応急処置の習得などの啓蒙活動を、より多くの人に理解してもらうよう今後も継続的に行っていかなければならないと考える。そのために地域医療支援として、住民に対し、医療機関が連携して何ができるかを検証し、安全で質の高い医療の提供だけでなく、災害時に必要な医療情報の提供や情報伝達ができる連携網の構築を行政にも働き掛け、積極的に進める必要がある。光ファイバーで医療機関を結んだ「ゆけむり医療ネット地域医療連携システム」が開始13年目を迎え、地域医療の支援ツールとして、災害と医療をテーマに新たな仕組みによる質の高い医療と情報の連携が期待できる。

今年度の市民救急フォーラムはこれまでの市民対象ではなく、実際に救急時に立ち会う機会が多くなると想定される別府市内の看護学生（明豊・溝部・別府青山）を対象に社会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター 救急科部長 玉井 文洋先生からトリアージの基礎から応用に至るまで具体的な例を提示し、看護学生が実際に考え・判断する時間帯を設け、より実践的な経験を積むことが出来る内容となった。

別府市消防隊員による現場でのトリアージ対応に関する実演や、実物のトリアージタグを使用し、タグの取り扱いや記載方法、重要な処置・伝達すべきことは大きくはつきりと時間を入れて記載しなくてはならないことなどの重要な点や現場では忘れがちな点の説明があり、参加した学生は現場でどうすべきか、ロールプレイング的な経験を積むことができた。看護科の学生に対する救命講習受講の重要性を促進するという目的を達成できたと感じた。

1. 「市民救急フォーラム・BEPPU」

令和5年9月3日（日）10:00～12:00

場所：ビーコンプラザ 3階国際会議室

・特別講演「トリアージ学習会」

演者 講師：社会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター
救急科部長 玉井 文洋 先生
座長 別府市医師会
常任理事 佐藤 倫一郎 先生

健診・検査

平成22年に西野口町の自衛隊保養所「スパシオン」跡地に別府市と三師会（医師会、薬剤師会、歯科医師会）の協力により、健康づくりの拠点複合施設として別府市保健センター「湯のまちけんこうパーク」がオープンし、健診と夜間こども診療部門が移転してから14年が経過し、令和5年度もここで業務を行った。

平成20年度より始まった特定健康診査（特定健診）が、第4期として5年計画で15年目を迎えた。計画期間の実施率の目標は特定健診・保健指導の実施率をそれぞれ70%・45%に維持することを国が掲げている。別府市国保では受診勧奨を行っているが、受診率が伸び悩んでいる。

協会けんぽ生活習慣病予防健診は、令和4年度は2,035件であったが、令和5年度は2,086件で51件の増となり、人間ドックでは令和4年度は27件、令和5年度は34件で、7件の増となった。

労働安全衛生法に基づく事業所検診は、令和4年度は4,054件であったが、令和5年度は4,854件となり、800件の増となった。主な要因は企業のストレスチェックが増えたため増収となった。

協会けんぽ生活習慣病予防健診の収入は、令和4年度は29,493,710円に対して、令和5年度は31,084,551円で1,590,841円の増収となった。

人間ドックの収入は、令和4年度は551,800円に対して、令和5年度は774,402円で222,602円の増収となった。

事業所検診、別府市職員健診関係、病医院従業員・職員健診の収入は、令和4年度は28,544,970円に対して、令和5年度は28,462,326円で82,644円の減収となった。

医師国保健診、歯科医師国保健診、原爆被爆者健診等の生活習慣病健診の収入は、令和4年度は2,607,480円に対して、令和5年度は1,769,292円で838,188円の減収となった。

別府市がんセット検診、住民検診、特定健診関連の収入は、令和4年度は39,295,151円に対して、令和5年度は41,524,945円で2,229,794円の増収となった。主な要因はがんセット検診の受診者が増えたため増収となった。

学校検診と心臓検診（委託料収入）の収入は、令和4年度は12,458,660円に対して、令和5年度は12,177,778円で280,882円の減収となった。

予防活動収入は、令和4年度は1,610,020円に対して、令和5年度は1,541,870円で68,150円の減収となった。

機器共同利用は、令和4年度は235件、1,566,071円に対して、令和5年度は253件、1,719,310円で153,239円の増収となった。

特定保健指導は、大分総合健診センター、厚生連健康管理センター、医師会地域保健センターの3機関で行っているが、令和4年度は233件、1,739,621円に対して令和5年度は253件、

1,869,696 円で 130,075 円の増収となった。

保健予防活動収入では、令和 4 年度は 109,758,222 円に対して、令和 5 年度は 112,807,760 円で 3,049,538 円の増収となった。

令和 5 年度に健診で発見された、がん症例は、肺がん 0 名、胃がん 2 名、乳がん 6 名であった。肺がん・胃がん・乳がんの発見にご尽力いただいた読影委員会は、令和 5 年度は胸部班 14 名でのべ 236 回、胃部班 8 名でのべ 189 回、マンモグラフィー班 8 名でのべ 125 回の読影をして頂いた。受診者に対しては例年 3 ヶ月後に見直しと精密検査勧奨を行っている。

令和 5 年度の二次精密検査受診率は胃部 X 線 66.7% (令和 4 年度 70.1%)、胸部 X 線 23.4% (同 43.4%) 及び心電図 25.9% (同 33.3%)、マンモグラフィー 72.5% (同 91.2%) となった。

令和 6 年 4 月 1 日現在のため 1 月～3 月の二次受診の結果が反映されていないため低い数字となっている (前年度比較は会報の各読影委員会報告を参照いただきたい)。

検査に関しては平成 18 年度よりファルコ社との 5 年契約 3 度目 15 年間の契約が令和 3 年 3 月で満了を迎え、鋭意検討した結果、令和 3 年の 4 月から BML 社と外注契約をしているため、検査部門が廃止され、健診部門へ統合された。依頼検体は BML 大分営業所で検査され、特殊な検査については福岡ラボで行っているため緊急検査に時間がかかるなどの要望が会員からあり令和 3 年 10 月からスモールラボを開設し、機器と試薬は BML が持ち、検査業務は健診部門の検査技師 1 名が輪番で限られた項目 (下記参照) のみを検査している。

生化学的検査	肝機能 (AST (GOT)・ALT (GPT)・ γ -GTP・総ビリルビン)、 電解質 (ナトリウム・カリウム・クロール) 腎機能 (尿素窒素・クレアチニン)、膵機能 (アミラーゼ)、CRP
血液学的検査	末梢血液一般、血液ガス、血沈
尿・糞便等一般検査	尿定性

特定健診の検査依頼からデータ入力・報告書作成、国への報告・請求データファイルの作成までの業務代行を地域保健センターで行い、それぞれの個別医療機関で実施した特定健診データを個人のスマートフォンのアプリに結果を返すサービスをゆけむり医療ネットで始めている。

BML 社との協議する場として検査委託先との協議会を開催し、検査実績報告や問題点などを協議している。

【地域保健センター運営連絡会】Web 開催 (Zoom)

令和 5 年 5 月 29 日 (第 1 回) 7 月 24 日 (第 2 回) 9 月 25 日 (第 3 回)
11 月 20 日 (第 4 回)
令和 6 年 1 月 22 日 (第 5 回) 3 月 18 日 (第 6 回)

【検査委託先との協議会】

令和 5 年 12 月 15 日 (第 1 回)

【学会並びに研修会】

令和5年7月15日・16日 第54回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会（長崎）

学 校 医

本年も昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の勢いが衰えず、昨年ほどまではないが少なからず学校医活動も引き続き影響があった。また、年明けからインフルエンザA型・B型の感染も発生した。

会議は、徐々に現地開催を行うようになっており、全国学校保健・学校医大会は昨年度同様に現地開催とWeb開催のハイブリッド開催、大分県医師会学校医部会定例総会は、令和5年度学校保健研修会と合わせての開催、別府市学校保健大会は通常通りの開催となり、医師会関係者としては、特別表彰として、矢田公裕前会長（境川小校医）、重見英男先生（青山中ほか校医）、福永拙先生（別府支援学校鶴見校校医）が、一般表彰として、松井祐治先生（朝日小校医）が表彰された。

ここ数年、学校医の先生方の高齢化が進んでおり、後任医師の手配に苦慮する傾向にある。会員の先生方のご協力が必須となるので、是非ともお願いしたい。

令和5年10月24日 大分県医師会学校医部会定例総会

令和6年1月23日 令和5年度別府市学校保健功労者表彰式

産 業 医

今年度は入・退会などで、合計79名の認定産業医が所属している。

産業保健事業については、平成26年4月より産業保健センター事業、地域産業保健事業、メンタルヘルス対策支援事業の3事業が一元化され、大分県中部地域産業保健センターとして、産業保健活動総合支援事業を実施しているが、令和4年度まで本会が受託していた本事業は医師会館旧施設解体及び事務所棟補修工事の実施ということもあり、大分郡市医師会に移管した。

加えて、工事にともない大分産業保健総合支援センター主催の産業医研修会についても、来館者の安全性、利便性を考慮した結果、今年度は貸館を見合わせた。

大分県医師会主催の産業医研修会については、昨年度に引き続きWeb研修システムを利用した研修会を実施し、本会では合計4回の開催について会場提供というかたちで協力した。感染対策を考慮して会場の収容人員を半数に制限しての開催とはなったが、大分県医師会館から配信される内容を視聴するという形式は、参加者が日常の診療後に大分県医師会館まで出向かなくてよいため、参加者からは概ね好評であった。

サテライト会場という制限があるため、スライド・映像の共有、音声の調整、質疑応答の際の対処など、大分県医師会館と同じ条件での聴講を担保するためには、万全な環境準備が求め

られる。

また、行政を含め事業所から産業医の推薦依頼があった場合は都度理事会に諮り推薦者を検討しているが、今年度は2つの事業所より推薦依頼があった。

大分県医師会

令和5年8月3日 第1回産業医研修会（於：別府市医師会 Web研修システム）
9月4日 第2回産業医研修会（於：別府市医師会 Web研修システム）
10月30日 第3回産業医研修会（於：別府市医師会 Web研修システム）
令和6年2月8日 第6回産業医研修会（於：別府市医師会 Web研修システム）

健康スポーツ医

健やかに生き生きとした生活を送るためには、適度な運動・スポーツを行うことが必要不可欠であるが、運動・スポーツは生活習慣病予防や介護予防などに有効だけでなく、有疾患者や要介護者、障害者においても、適切に行うことで病状の悪化予防や改善、生活の質の維持・向上に有効となり得る。

このため、意識的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持だけでなく、将来的な要介護状態を回避するためにも重要であり、スポーツを通しての健康維持と増進が必要不可欠である。

スポーツ庁では、「医療と連携した地域における運動・スポーツの習慣化」を提唱しており、誰もが身近な地域で安心してスポーツを楽しめる環境整備を推進しており、身近なところでは、大分県の「おおいた歩得」事業、別府市でもアプリを使用した「別府市みんなで健活ポイント事業」が実施されており、8月には夏期巡回ラジオ体操が別府公園で行われ早朝にも関わらず多くの市民が参加するなど、市民の運動やスポーツを通しての健康維持には高い関心が示されており、その分、医療側においても従来以上にかかりつけ医、健康スポーツ医、学校医、産業医との協力・連携が重要になってくることは言うまでもない。

令和5年度には第20回FINA世界水泳選手権2023福岡大会、ラグビーワールドカップ・フランス大会が開催され、令和6年度にはパリオリンピック・パラリンピック等、国際的スポーツイベントが相次いで開催されることから、国民のスポーツに対する関心と意識の高まりに比例して、生涯スポーツの観点からも地域社会において健康スポーツ医に求められる責任や寄せられる期待は大きいといえる。

本会における令和5年度の日医認定健康スポーツ医は、入会・退会・更新等を含めて、合計11名となっており、様々場面において広く健康スポーツ医活動について研鑽を深め、包括的な健康スポーツ医活動を行っていただいているが、単位更新については、大分県内で開催される認定再研修会の機会が少ないという問題もあり、先生方には県外で単位修得していただくというケースも少なくない。

日本医師会認定健康スポーツ医制度は、更新要件として、再研修会の受講修了だけでなく、健康スポーツ医としての活動（学校、職場、地域等におけるスポーツ医学の立場からの指導・

教育・診療活動等)が義務付けられているが、会員の増加や単位修得に関しては、別府市医師会主催で再研修会を開催するなど、これまで以上に努力していく必要がある。

令和6年3月16日 令和5年度大分県医師会講演会(スポーツ医学)

初期救急医療事業

夜間こども診療の令和5年度の受診者数は3,417人(令和4年度2,269人)で、前年度より1,148名の増となり、令和2年度の年間受診者数1,798名と比較すると約2倍に増える結果となった。

新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの流行、更に夏場のRSウイルス感染症の流行を受ける形となり、抗インフルエンザ薬や迅速検査キットを大量に購入が必要となったため、薬品費が大幅な超過することとなったが、今年度は黒字運営となった。

二次医療機関への転送は89件(令和4年度83件)と昨年と比較し若干であるが増加した。

疾病によるものが55件(令和4年度55件)、外傷などの外的要因のものが34件(令和4年度28件)と昨年度と比較し疾病は同数、外傷は6名の増となった。

休日内科診療は、本年で7年目となったが、新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザ流行のため受診者数が増え、途中臨時開設を7回行い、今年度は835名(令和4年度185名)と前年度と比べ約4.5倍の受診者となった。

5類移行後、別府への観光客も増えたことから、夜間こども・休日内科ともに県外の方の受診が増えてはいるが、夜間こども診療は少子化の影響が出始め、令和4年度は、6歳以上の受診が全体の30%程度であったが、本年度は全体の45%を占める形で、年齢層が上がってきている。また、休日内科診療は市民に定着してきたことから、当番医医療機関と同様の受診者数となってきている。全体としては、いよいよ4月にコロナ特例対応が終了となることから、影響がどの程度となるか不透明である。

今後も引き続き市民が安心して受診出来る仕組づくりを目指し、別府市と協議し、協力を得ながら、進めていく所存である。

令和5年5月29日 第1回初期救急医療事業運営連絡会
9月11日 第2回初期救急医療事業運営連絡会
12月1日 第3回初期救急医療事業運営連絡会

《看護教育部》

看護学科（2年課程）

看護学科2年課程は、最後の卒業生となる3年生（36回生）は26名が進級し、留年生1名を合わせて27名でスタートした。令和5年度は成績不良や家庭の事情を理由に退学したものは1名であった。

令和4年4月の3年課程への課程変更に伴い、令和4年度より看護学科2年課程の入学者はいない。課程変更を行っていくにあたって、本会より多額の補助金繰入が必要となっている。令和5年度第113回看護師国家試験は2月11日に行われ、36回生26名が受験し25名が合格であり、1名が不合格となった。全国平均は87.8%であり、過去10年間で最も低く、県内の看護学校で全員合格の学校はなかった。

令和6年3月5日（火）に、別府市公会堂にて36回生卒業式ならびに准看護学科2年課程の閉科式を開催した。多くのご来賓にご臨席賜り、大分県医師会会長の河野幸治先生に記念講演を行っていただいた。本校准看護学科卒業生総数は4140名、2年課程卒業生総数は1895名と多くの卒業生を輩出してきた。当看護学校を卒業した看護師は地元への就職率が非常に高く、長年にわたり地域医療に貢献してきた。これも、会員の皆様のご理解とご協力があったことである。

令和6年度からは3年課程のみとなるが、質の良い看護師養成のためには、優秀な指導者の養成・確保と環境整備は重要な課題である。教員の数の充実と定期的な指導者養成プログラムへの参加、適正な講師料設定による人材確保など今後も努めていきたい。

会員の皆様の貴重な援助を無駄にしないよう、よりレベルの高い看護師を育成していく努力をしたい所存であるので、ご指導ご鞭撻をお願いします。

令和5年4月1日	始業
5月6日	看護の日、避難訓練
30日	3年生：模擬試験
31日	3年生：健康診断（採血・採尿・胸写）
7月22日	3年生：健康診断（内科診察）
8月3日～16日	3年生：夏季休暇
8月20日	中四九地区医師会看護学校協議会（オンライン）
10月7日	3年課程推薦入学試験 社会人入学試験
23日	3年生：模擬試験
11月4日	3年課程一般一次入学試験
19日	3年生：大分県病院学会出席（別府ビーコンプラザ）
12月4日	3年生：模擬試験
13日	3年生：後期試験
18日	3年生：模擬試験
12月25日～6年1月5日	3年生：冬季休暇
1月9日	3年生：模擬試験

- 1月16日 3年生：模擬試験
- 23日 3年生：模擬試験
- 29日 3年生：模擬試験
- 2月7日 卒業判定会議
- 11日 第113回看護師国家試験
- 27日 3年生：看護観発表
- 3月5日 卒業式、閉科式

看護学科（3年課程）

令和5年4月3日（月）、課程変更および校名変更後 第2回目となる 別府市医師会立別府青山看護学校入学式が行われ、第2回生42名（内男子3名）の入学を許可した。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、前年度に引き続き保護者の皆様には別室オンラインによる参加をお願いした。式後には保護者説明会にて、学校長の挨拶とともに学校の沿革や課程変更に至った経緯、新入生を迎え入れる喜びなどについてお話しし、新年度をスタートさせた。

4月、新型コロナウイルス感染症の流行により見送った昨年の宿泊研修は、5類感染症への移行を前に2泊の宿泊研修を実施することができた。感染対策を取りながらの制約ある研修であったが、新入生にとっては親睦の良い機会になったようである。また、昨年オンラインで実施したオープンキャンパスも、思い切って県内高等学校の生徒さんたちに学校に来ていただき、大盛況であった。5類感染症への移行ということもあり、講義も従来の形を取り戻し活気あふれる学校になってきたように感じている。

10月には、厳かな雰囲気の中ナイチンゲールよりろうそくの灯を受け継ぐ継灯式を挙行了した。1年生は、その後初めての病院実習に臨んだ。また、2年生は大分空港航空機事故対応訓練に模擬患者として参加することができた。実際の事故を想定した本番さながらの訓練は学生にとって非常に印象深いものとなったようである。11月には、学生自治会主催のレクリエーションを実施。市民体育館を借用してのスポーツ大会となり1年生、2年生の親睦の良い機会になっていた。いよいよ3学年がそろそろ来年には、学校祭開催が目標である。12月に実施したクリスマスイベントでは、地域・在宅看護論実習Iでお世話になった施設に伺い、学生のハンドベル生演奏によるクリスマスソングなどをプレゼントした。施設の方にも温かく迎えていただくことができた。講義、演習、それに伴う課題と忙しい日々の学生だが、学生が企画する様々な課外活動はリフレッシュとなり、学校生活を充実させるものともなっているようである。2年生は、2月より領域別の実習が開始し、いよいよ最終学年を迎える準備が始まった。

学生の状況としては、随時試験で思うような結果を残すことができずに苦勞した学生も数名いる。1名の再履修者がいるものの、全員進級することができた。成績が低迷する学生には、これまでどおり個々に合わせた支援が必要である。令和7年度には、初めての卒業生を看護師として社会に輩出することになる。看護師国家試験100%を目指し、教職員一同取り組んでまいりたい。

今後も、引き続き、会員の皆様のご指導をお願いしたい。

- 令和5年4月3日 入学式
- 3日～7日 新入生オリエンテーション
- 5日 1年生・2年生 健康診断(採血・採尿・胸部X線・身体計測)
- 24日～26日 1年生 宿泊研修(平成令和の森スポーツ公園)
- 5月6日 看護の日・避難訓練
- 17日 1年生 健康診断(内科健診)
- 24日 2年生 健康診断(内科検診)
- 5月29日～6月9日 地域・在宅看護論実習Ⅰ(1年生)
- 7月6日 1年生 普通救命講習(別府市消防本部)
- 8日～8月6日 夏季休業
- 7月29日・30日 オープンキャンパス
- 8月14日～25日 基礎看護学実習Ⅱ(2年生)
- 8月20日 中四九地区医師会看護学校協議会(オンライン)
- 9月3日 市民救急フォーラム BEPPU 参加(2年生)
- 10月7日 推薦・社会人入学試験
- 13日 継灯式
- 10月23日～27日 基礎看護学実習Ⅰ(1年生)
- 27日 大分空港航空機事故対応訓練 参加(2年生)
- 11月4日 一般一次入学試験
- 24日 自治会レクリエーション(スポーツ大会)
- 12月4日～15日 基礎看護学実習Ⅲ(2年生)
- 12月22日 クリスマスイベント(施設訪問)
- 12月23日～令和6年1月8日 冬季休業(1・2年生)
- 1月10日～1月22日 春季休業(2年生)
- 2月3日 一般二次入学試験
- 1月29日～2月8日 小児看護学実習(保育所)(2年生)
- 2月17日～3年次 領域別実習(小児・母性・成人・老年)(2年生)
- 3月13日 人権学習Ⅰ(別府市人権啓発センター)
- 3月16日～3月31日 春季休業(1年生)
- 3月27日 学校長申し渡し(単位未修得者)

看護職研修会

看護職研修会は別府市医師会の医療機関で働く看護職の資質の向上等を目的として、実行委員会が研修を企画、運営をしている。実行委員は、3年毎に別府市内の医療施設より選出していただき、計6名が年に数回委員会を持ち活動している。

昨年度は、COVID-19が5類となったため、例年通り大分県立看護科学大学にてフィジカルアセスメントの研修会を実施し、33名の看護師が参加した。

令和5年度の看護職研修会および実行委員会は以下の通りである。

I. 研修会

① フィジカルアセスメント（呼吸器・循環器・消化器）

講師：大分県立看護科学大学 看護アセスメント学研究室

教授 藤内 美保先生

日時：令和5年10月14日（土）9:00～13:00

II. 実行委員会

① 第1回実行委員会

日時：令和5年6月17日（土）13:00～14:00

② 第2回実行委員会

日時：令和6年3月2日（土）13:00～14:00

《地域福祉部》

令和5年度の地域福祉部門の実績については、以下のとおりである。

1. 訪問看護ステーション

(営業報告)

年間新規利用者数 33 名 (26 名) (以下かっこは、前年度)、終了者 37 名 (44 名)、年間利用者数の増減は -98 名、月末利用者数平均 33.3 名 (41.3 名)、訪問回数平均 194 回 (251 回)、年間利用者数、月末利用者平均、訪問回数すべて著明減少となっており、全般的に仕事ができない状態である。

訪問看護ステーション利用状況

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	4	0	3	2	2	2	2	1	2	2	0	6
終了者数(名)	4	3	3	3	1	2	2	8	8	3	0	7
月末現在数(名)	49	46	46	45	46	46	46	39	33	32	32	36
訪問回数(回)	275	291	278	274	279	246	309	257	198	174	194	236
令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	2	2	3	1	3	5	3	3	6	3	0	2
終了者数(名)	7	1	3	2	2	3	6	5	1	1	2	4
月末現在数(名)	32	33	33	32	33	35	32	30	35	37	35	32
訪問回数(回)	167	176	201	188	195	227	165	154	195	234	207	222

(会計報告)

年間事業収益 29,823,745 円 (23,231,634 円)、年間事業経費 30,760,071 円 (32,427,795 円)、年間事業利益 -936,326 円 (-9,196,161 円)、年間事業利益の赤字は軽度少なくなったが、年間事業収益、年間事業利益も赤字決算のままとなった。

(活動内容)

訪問看護ステーション運営委員会

令和5年4月17日・7月20日・10月31日・令和6年3月21日

九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会

令和5年7月15日・16日

2. 居宅介護支援センター

(営業報告)

年間ケアプラン作成 1,224 件 (1,176 件)、認定調査件 38 件 (67 件)、年間ケアプラン作成は前年度よりも増加したが、認定調査件数は減少した。

居宅介護支援センターケアプラン作成状況

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護 1	47	49	45	41	37	39	40	38	41	41	41	45
要介護 2	18	15	17	24	26	22	27	26	26	23	21	22
要介護 3	13	12	15	13	14	13	15	16	15	16	15	16
要介護 4	4	3	2	2	2	3	4	3	6	8	6	6
要介護 5	7	8	8	8	8	8	9	9	10	8	7	6
総計	89	87	87	88	87	85	95	92	98	96	90	95
予防介護(委託)	6	3	6	6	5	7	8	11	9	9	8	9
令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護 1	44	41	44	45	45	46	44	44	42	39	35	41
要介護 2	23	23	22	24	23	23	25	25	22	22	18	18
要介護 3	16	14	12	12	12	14	13	13	15	15	11	13
要介護 4	7	7	8	9	10	11	12	12	11	12	12	12
要介護 5	7	6	7	7	8	8	8	8	6	7	8	8
総計	97	91	93	96	98	102	102	102	96	95	84	91
予防介護(委託)	9	8	8	5	8	8	8	8	4	4	4	3

申請代行・認定調査

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(名)	8	7	7	5	4	6	8	7	2	3	4	6
令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(名)	5	3	4	5	6	2	10	3	0	0	0	0

(会計報告)

年間事業収益 19,136,345 円 (17,993,979 円)、年間事業費用 22,464,110 円 (19,218,818 円)、年間事業利益 -3,327,765 円 (-1,224,839 円)、事業収益、事業費用ともに増加。人件費も増加し、結果的に利益はマイナス幅が増加した。ケアプラン作成は増えているが、認定調査は減少している。今後はいかにケアプラン、認定調査を多く作成できるかにかかっている。

(活動内容)

居宅介護支援センター運営委員会 (訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

令和5年4月17日・7月20日・10月31日・令和6年3月21日

3. ヘルパーステーション

(営業報告)

年間新規利用者数 18 名 (21 名)、終了 10 名 (10 名)、月末利用者平均 31.1 人 (30.8 人)、訪問回数平均 224.7 回 (193.5 回) で新規利用者数は減少し、月末利用者は微増と訪問回数は増加した。ヘルパーステーションは、この状況下でよく頑張っていると考えている。

ヘルパーステーション利用状況

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	3	2	0	5	2	3	2	0	1	0	0	3
終了者数(名)	1	0	2	2	0	2	0	2	0	0	0	1
月末現在数(名)	29	30	28	30	32	31	33	30	31	31	31	33
訪問回数(回)	152	195	187	206	203	205	212	198	194	172	187	211
令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	1	1	2	3	0	0	1	2	1	2	3	2
終了者数(名)	1	1	0	0	0	2	0	3	0	1	2	0
月末現在数(名)	33	33	35	32	32	30	31	28	29	30	29	31
訪問回数(回)	201	211	235	219	229	232	233	218	219	205	235	259

(会計報告)

年間事業収益 11,831,731 円 (9,675,896 円)、年間事業費用 14,621,418 円 (9,657,608 円)、年間事業利益 -2,789,687 円 (18,288 円)、事業収益は増加したが事業費用も増加し、年間事業利益も赤字決算となった。今後件数を増やし黒字化を目指している。

(活動内容)

ヘルパーステーション運営会議 (訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

令和5年4月17日・7月20日・10月31日・令和6年3月21日

総評としては、昨年同様に非常に厳しい状況である。また、本年4月に新たに訪問看護の管理者を選任したが既に退職が決まり、5月より新たな管理者のもと再出発となる。昨年度、非常に多くの退職者を出し、本年度、退職者はほとんどいなかったが、管理者の問題が難しく、まだ混沌としている。

訪問看護がなかなか落ち着かずに難しい状況にあるが、居宅介護支援センター、ヘルパーステーションは何とか機能し始めている。3部門ともに赤字で非常に厳しい状況であるが、今年度も主任ケアマネの伊藤管理者を中心に業務に背水の陣で挑むつもりでいる。これまで通り、新体制を温かい目で見守っていただけると幸いである。必ず会員の皆様に納得していただける体制を組めるように小さなことも見逃さず、きちんと対応していく所存であるので、よろしくお願ひしたい。

介 護 保 険

令和6年度に介護報酬の改定が行われることとなり、4月に施行されるものと医療と同様に例年の4月から6月改定実施となるものにわかれ、全体の改定率は1.59パーセントの引き上げとなった。

主な視点としては、①地域包括ケアシステムの深化・推進、②自立支援・重度化防止に向けた対応、③良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり、④制度の安定性・持続可能性の確保、この4点を基本的な視点として改定が行われた。

今回は見送られた項目（要介護1～2における総合事業への移行・ケアプランの有料化）もある。次回の改定には何らかの影響を及ぼすことが予想される。

介護認定審査会は、皆様方のご協力により引き続き変更なく引き受けていただき感謝申し上げる次第である。今年度の審査会の開催回数及び審査件数は、別府市・日出町で日中・夜間合わせて279回開催され、9,438件が検討された。今後も、引き続きご協力をお願いしたい。

令和5年5月19日	第5回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（Web）
8月18日	第6回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（ハイブリッド）
令和6年2月16日	第7回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（ハイブリッド）